

第2回志布志市ひとがともに輝くまちづくり審議会

日付：令和7年2月26日(水)

時間：午前10時00分 開会

場所：本庁4階 庁議室

【開 会】コミュニティ推進課 ダイバーシティ推進グループリーダー進行（10:00～）

志布志市ひとがともに輝くまちづくり条例（以下条例という。）第23条第2項の規定により、委員の過半数13名の出席を得て会議が成立

【課長挨拶】コミュニティ推進課長あいさつ

本日は御多用の中、令和6年度 第2回志布志市ひとがともに輝くまちづくり審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から男女共同参画をはじめとした本市のダイバーシティ社会の推進に御協力いただき、ありがとうございます。

さて、人口減少と人材不足が顕著になりつつある社会情勢において、多様な人材が社会で活躍しやすい環境づくりを推進することは、これからのまちづくりにおいて欠かせない視点です。

しかし、性別の固定概念から生じる役割分担や性別を理由にした無意識の思い込みが男女共同参画や多様な人材の活躍の推進を妨げる要因として存在することは否定できません。

私たちは、このまちに生きる人それぞれの背景に関わらず、誰もが活躍し、自分らしく笑顔で暮らしていけることを最大の目標として事業に取り組んでいます。

本日は、今年度第2回目の会議ということで、計画に基づく今年度の取組の評価をいただくほか、令和6年度の取組について報告させていただきます。それぞれ忌憚のない御意見をいただきますよう、よろしくお願いします。

【協 議】 進行：杉田会長

(1)「第4次志布志市ひとがともに輝くまちづくりプラン」に基づく評価

コミュニティ推進課ダイバーシティ推進グループが「第4次志布志市ひとがともに輝くまちづくりプラン」に基づく評価について説明し、意見を求めた。

（質疑応答）

Q 1 啓発や学びの機会は非常に大事であると思うが、市民講座や出前講座の回数はどうだったか。また、市職員への研修の機会を増やすことができなかった理由があるか。

A 1 コミュニティ推進課で実施した市民講座は無かったですが、出前講座としては11回行った。また、職員研修については、計画的な取組みにつなげられなかったことが研修機会を増やすことができなかった理由である。

Q 2 今後の改善をどのように図っていこうと考えているか。

A 2 出前講座の周知啓発を強化することや市民講座、職員研修は早い段階で計画的な取り組みを行えるように努めていきたい。

Q 3 評価指標のなかで日本語ボランティアの支援の実施については改善の余地があったとあるが、どのような取り組みをされているのか。

A 3 市が把握しているボランティアで日本語を教えている方が1組いる。企業からの要望により活動をされている。しかしながら、人材育成が課題であると言われている。今後は、市内の日本語を教えられる人材の把握や多文化共生の取り組みに対する意見交換を行う必要がある。また、地域コミュニティ協議会で地域に住む外国人との交流会を行ったところもある。

Q 4 行政のほうで外国人と交流する機会をもっと作れないか。

A 4 今後、どのような取り組みができるか考えていく。また、交流の機会を作れても外国人の方々に周知が図られないといけないので、お知らせ、チラシ作成の工夫など情報発信にも努めていきたい。

Q 5 日本語ボランティアで外国人の方々に日本語を教えるには資格が必要か。

A 5 日本語教育として学校等で日本語を教えるには資格が必要であると思うが、生活等における日本語を教えることは資格が無くても教えられると思う。

Q 6 本市に住んでいる外国人の出身国はどこが多いか。

A 6 多い国は、ベトナム、インドネシア、フィリピン、ミャンマーである。

Q 7 外国人に対する表示が少なく感じているので、関係課等に伝えてほしい。

A 7 関係課等に伝えていくが、まずは、職員が外国人に対する表示について理解する必要があるので研修等を通じて伝えていくなど、今後の取り組みを考えていきたい。

Q 8 外国人の取り組みについては垂水市の取り組みを参考にされてはどうかと思う。また、女性の再就職支援事業の評価における事業の取り組みでは、企業で働いている女性の働き方や企業側の声を参考にして、どういう取り組みが求められているのかを踏まえて、来年度の事業に取り組んでほしい。

A 8 垂水市の取り組みも含めて、各自治体の取り組みを参考にしながら今後の取り組みを考えていきたい。また、女性の再就職支援事業についての意見については、担当課につないで、来年度の事業の取り組みの参考にさせていただく。

Q 9 女性活躍推進の事業に中学生や高校生の親に参加してもらえるような工夫はできないか。また、子どもの人権問題でスマホ、SNS による人権が大きな課題だと考えるので、その課題に対する取組みも必要だと思う。

A 9 女性活躍推進事業については、いただいた意見を参考に検討していきたい。また、鹿児島地方法務局 鹿屋支局長を講師に人権に関する研修を行った際に、子ども達がスマホでいじめにあった場合の相談窓口に関するフローチャートの説明があった。そういうものも活用しながら、取組んでいきたい。

Q10 地域に住んでいる外国人に日本語を教えるというのは、資格の有無に関係なく、地域の方々が担っていただければいいと思う。今はチャット等も進歩しているので、そのようなものを活用していくのが現実的である。地域の方とか職場の方とコミュニケーションをとれる情報を築いておけば、必要に応じた形での教え方でいいと考える。外国人の方に最低限コミュニケーションできるように、支えてあげることが大事だと考える。

A10 ご意見を参考に取組んでいきたい。

Q11 様々な犯罪が報道されている。犯罪を防止するには幼いころからの人権教育が必要だと思う。また、知識を身につけられるような市の取組みは重要であると考えている。市民講座や出前講座は今後も進めていただきたい。

A11 人権に関する出前講座等は継続した取組みが必要であると考えている。教育委員会においても人権に関する取組みを積極的に行われている。委員からいただいた意見を教育委員会と共有し、今後の取組みの参考にさせていただきたい。

【委員発言】 全体的な評価については部署によってばらつきがあることや改善されている事業もあれば、評価が下がった事業もあり、リアルな実績に基づいて課題を振り返っていたようなので、これを継続していただきたい。継続することで実績につながると考える。また、外国人と地域との交流会が行われた話とか、この審議会で出された様々な意見とか、いいところも悪いところもあるかもしれないが、発信していかなければならないと考えている。

【委員発言】 男女共同参画だったり、ジェンダーだったり、あと性のことだったり、実は子どもたちの方がとてもよくわかっている。取り残されているのは私たち大人の方であるということを意識しないといけないなと感じている。大人の意識を変えるための仕掛けをしていかないと人権を大事に育った子どもが社会に出た時に大人に言われた言葉で自信を無くしてしまうことになりかねない。生涯学習の講座

等で大人の意識を変えることで子ども達が将来、志布志に住み続けたいと思ってもらえるような社会になるように、また、外国人が志布志に長く住みたいと思っていただけるように、今後も何らかの取組みを行っていきたいと感じた。

【協議】(2) 女性活躍推進に関する事業所・従業員アンケート調査結果報告について
コミュニティ推進課ダイバーシティ推進グループが女性活躍推進に関する事業所・従業員アンケート調査結果を報告し、意見を求めた。

(質疑応答)

委員からの質疑・意見なし

【協議】(3) 令和6年度取組について

コミュニティ推進課ダイバーシティ推進グループが令和6年度取組について説明し、意見を求めた。

(質疑応答)

Q 1 大隅地域の企業による説明会や志布志市で行われている企業合同説明会等で女性活躍や働きやすい職場について紹介するなど、地元の企業を知ってもらうことに力を入れていけば、地元に残ってくれる高校生が増える可能性があると思うので、市役所内で連携して取り組んでいただければと思った。

A 1 ご意見を参考にして関係部署と連携した取組みについて協議していきたい。

【協議終了】議長降壇

【事務連絡】コミュニティ推進課 ダイバーシティ推進グループリーダー進行

①出前講座の活用依頼

②市民講座への参加依頼

【閉会】コミュニティ推進課 ダイバーシティ推進グループリーダー進行（～12:00）